



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

COVID-19 にも後押しされた C & I Commun 電子化の議論

C & I Commun について

コロイドおよび界面化学部会では、部会員に向けて“Colloid & Interface Communication (C & I Commun)”という名称のニュースレター(部会誌)を発行しています。1976年の部会発足時にスタートしてから2022年でVol. 47となり、部会員の皆様に長年親しまれています。毎号充実した会報誌を届けられるよう、編集委員がアイデアを出し合って取り組んでいます。当部会は、大学・研究機関と企業の両方から研究者が集まる組織であり、幅広いニーズを汲み取って、皆さんに読みたいと思って貰えるC & I Communを目指しています。主な目的は、部会員に向けた討論会やイベントの告知、学術的なレビューやニュース、産業界からのトピックスなどを掲載することです。

C & I Commun 掲載の情報

C & I Commun 各号は以下の内容で構成されています。

- ① 巻頭言 ② 特集記事
- ③ Interface ④ Topics
- ⑤ 研究室紹介
- ⑥ リレートーク

～コロイド・界面との懸け橋

- ⑦ 部会から ⑧ 会告

③のInterfaceでは、大学・研究機関の研究者によるコロイドおよび界面化学に関連した基礎的、学術的な最新の研究を紹介しています。その中で、若手ワーキンググループと連携し、毎号2件程度「若手注目研究」と題して紹介していま

す。④のTopicsでは、企業の研究者によるコロイドおよび界面化学に関連した応用的、産業的な研究(商品紹介を含んでも可)を紹介しています。

編集委員会に押し寄せた電子化の波

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症(COVID-19)の影響を受け、編集委員会も対面型からオンライン型への変更を余儀なくされました。また、COVID-19の影響が継続する中で発行された2021年第1号の②特集記事では、「コロナ対策と界面化学」を掲載しました。本記事は「正しい手洗い、うがい、消毒の方法とその効果について」(尾本百合子様、ライオン株式会社)、「界面活性剤の抗ウイルス効果と作用機序の解明」(川原貴佳様、シャボン玉石けん株式会社)、「接触感染リスク削減のための新型コロナウイルス環境除染技術」(西尾正也様、藤井健吉様、花王株式会社)により構成され、うがいや手洗いなど日常生活で可能な対策について専門的知見に基づいた解説をご寄稿いただきました。本特集記事は部会員に対する有用な情報提供となったと同時に、本情報を部会員に限定すべきかとの議論が編集委員会にて沸き起こりました。COVID-19の世界的混乱の中、玉石混合のネット情報から適切な情報を抽出することは専門外の方々にとっては必ずしも容易ではありません。そのような社会的情勢の中、うがいや手洗いに密接にかかわる「界面化学」を主戦場とする本部会が適切な情報を広く発信する意義は高いものであると判断され、冊子体の発行から2ヵ月後、部会ホームページに

て電子版を公開いたしました。現在(令和3年12月27日)も、部会ホームページのトップページの最も目立つ位置にバナーが置かれ、誰でも閲覧できるようになっています。

C & I Commun に押し寄せる電子化の波

学術雑誌の電子版は今や当たり前のプラットフォームです。学術雑誌の冊子体を図書館で複写した経験がない若手研究者も多くいらっしゃると思います。しかしながら、C & I Communは冊子体での発行を続けておりました。以前より電子化の議論は編集委員会等でなされてきましたが、特集記事「コロナ対策と界面化学」の電子版が一般公開されたことも相まって、C & I Communの電子化へ向けた議論が加速いたしました。一般公開を可能とするフリーアクセス化に関する議論も含まれています。C & I Communは部会員に対する部会サービスとしての機能を有する一方、本部会の学術的・社会的意義を広く周知する機能、その結果として多くの方に入会していただくための機能など、多様な機能を担っております。その中で、どの機能を強化すべきか、そして、その機能を託す媒体として何がふさわしいかを見直す絶好の時期が来ているものと思います。検討状況は随時C & I Communならびに部会ホームページにて公表予定ですので、部会員だけではなく部会員以外の方にもご覧いただければ幸いです。

[2021年度編集委員長 並河英紀(山形大学)]

© 2022 The Chemical Society of Japan